

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001153		
法人名	有限会社 リトルデン		
事業所名	グループホーム おひさまの家 (ひまわり・こすもす)		
所在地	〒800-0337 福岡県京都市郡苅田町稲光1130番1		0930-25-8886
自己評価作成日	平成27年06月29日	評価結果確定日	平成27年08月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		093-582-0294
訪問調査日	平成27年07月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームおひさまの家は 広々とした敷地の中にあり 隣接する小規模多機能ホームかぐや姫住宅型有料老人ホームおひさま館と共にのどかな雰囲気を演出している 今年おひさま公園に桜が満開になり、利用者、家族、地域住民と一緒に楽しく花見をしました。皆総出で「持ち寄り弁当」企画が喜ばれました。公園では井戸端会議に花を咲かせ、隣接している4棟の施設が仲良く近所づきあいであり、町内会を彷彿させます。グループホームも開設11年となり利用者の入れ替わりも少なく、顔馴染みから始まり今では「終の棲家、心の故郷、私達は家族」…の思いで日々穏やかに過ごしています。我ホームのお約束 「目指せ100歳!!!」を合言葉として利用者、家族、全職員一丸となっています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「おひさまの家」は、郊外の緑に囲まれた広い敷地の中に、専用の庭と東屋をつくり、地域住民や多くの家族がイベントに参加出来るようにし、地域のオアシスになっている2ユニット(定員18名)のグループホームである。施設長の利用者と家族に対する熱い思いを、職員全員が理解し、住み慣れた地域の中で、利用者や家族が、何時までも幸せに過ごせるように支援し、一日一日を大切にしている。ベテラン職員が作る栄養バランスの取れた美味しい食事を完食し、生活リハビリを随所に取り入れ、往診体制が整ったホームドクターの協力で、安心して任せられる医療連携体制が整っている。また、外部や内部の研修会に職員が交代で参加し、職員の質の向上と、介護力の均一化を図り、地域住民の介護相談や、研修会の講師を務める等、地域密着型事業所として、地域社会の貢献に取り組む「グループホーム おひさまの家」である。

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に「理念の唱和」を行い、職員の意識付けを実施している。月度会議、日々のカンファレンスに於いては理念に基づいた考えのもと利用者に接遇することを実践している	心のケアを行いながら、利用者一人ひとりの生活能力を活かし、尊重し、明るく楽しく生活できるグループホームを目指す事を理念に掲げ、毎日の朝礼時に、理念を唱和して、全職員で共有している。職員は、常に利用者に寄り添い、洞察力の強化を行いながら、利用者それぞれの力を活かした笑顔溢れる暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会の参加者のご自力により、現状においては地域に開かれたホームとなり、ホームの開催行事には積極的に協力していただき利用者も地域の一員として良い関係を確立しています。	敷地内に造ったおひさま公園で行われるホームの夏祭りや餅つきには多くの地域住民の参加があり、恒例行事として定着している。また、近隣中学校で、職場体験の事前研修を行ったり、ホームの紹介チラシを地域に配布、公民館の掲示板に貼らせてもらう等、地域密着型事業所としての啓発活動にも積極的に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームの行事に地域の方々の参加数も増え、顔馴染みの関係も出来上がり認知に関する理解も増し、前向きに協力関係が出来上がっている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例の運営推進委員会も定着し、利用者の現状報告、及びホームの取り組みについての説明後、積極的な意見交換が出来ている	会議は、併設小規模多機能ホームと合同で、2ヶ月毎に開催している。行事を兼ねた会議には、家族や地域の方の参加が多く、現状や行事報告、連絡事項を伝え、参加委員からは意見や情報提供を受け、これらの情報を活かした地域貢献に向けての取り組みも始まっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村、社協の研修等に参加し、市町村の担当者とは密に連携を図り、常に情報交換をしている SOSネットワークの協力参加を実践している	行政主催の研修会や行事に参加し、情報交換しながら連携を図っている。SOSネットワークにも参加し、行政を通じて、他事業所との交流が行われている。また、運営推進会議に行政職員の参加があり、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受けて、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束しないケア」掲げ、問題点が生じるごとに全職員で速やかに対応策を話し合い、確認している しかし利用者の安全対策としては 玄関施錠も時間を区切り有得ることも外部の方に理解をしていただけるように「貼り紙」等で必ず告知している	「これって拘束？」と各職員が疑問に思っている事を出し合い、対応策を検討し、拘束をしないケアの実践に努めている。帰宅願望の強い利用者に対しても、「ここにおりたい」と思ってもらうために、声掛け、対応を工夫し、職員全員で情報を共有し、皆で同じ対応をする事で利用者の安心に繋げている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活の中で利用者に対し、不安をあおる言葉、態度を行っていないか？ 職員間同士で声掛け合っている、利用者の変化を見過ごすことなくキャッチするように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に利用者、家族に説明できる体制をとり、地域包括とはいつでも連携ができるようにしている 現在においては 1名該当者が有り手続き関係を行っている	現在、制度活用に向けて申請中の利用者が1名いるため、実務を通して制度についての理解を深めている。また、制度について、利用者個々の必要性を検討し、資料やパンフレットを用意して説明を行い、関係機関と連携し、利用者にあった制度を活用できるよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず2名立ち合い、説明、納得、理解をしていただけるようにしている 契約前に事前説明会を実施し、その時に契約書類を前渡しとし、疑問点や補足部分を十分に説明し、双方納得の上にて契約の締結を行っている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両者が意見や要望を言い易い雰囲気作りで心掛け、いつでも時間が取れるようにしている 出された事柄は社内でも検討し、可能な限り反映している	職員は、共に過ごす暮らしの中で、利用者の意見や要望を聴いている。家族に関しては、行事を兼ねた運営推進会議や家族会の時に、家族同士が話す機会もあり、言いやすい雰囲気の中、意見、要望の収集を図っている。ホームの夏祭りには、家族がエプロンを着用してお弁当作りに参加する等、密な協力関係を築いている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の分散化によりミニカンファレンスの回数も多くなり、職員の声も反映できている よって前向きな意見が多く職員より上がり職場の運営の一員となっている	毎日のミニカンファレンスを継続する事で、職員の洞察力が鍛えられ、発見、気づきが増えている。カンファレンスノートに詳細に書き込み、情報を共有する事で、統一した介護に繋げている。職員から出された意見は、全体会議に挙げて検討し、ホーム運営、サービスの向上に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	信頼と誇りが持てることを目指し、全職員がやり甲斐と強調性が持てるように職場環境を見直し、適切な給与水準を考える		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては、性別、年齢の制限無し リーダーのもと研修期間を設け、研修後に双方納得の上、入社している 希望休を優先に勤務ローテーションを作り、働き易い職場作りに努めている	職員の募集は、人柄や介護に対する考えを重視し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。採用後は、スキルアップする事で自信が持てるように年間計画を立て、外部から講師を招く等して内部研修を充実させている。職員同士が声を掛け合い、助け合いながら、働きやすい職場作りに取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳について内部研修を行い、日常より職員間も同様、互いを尊重し合う精神を養い、意識付けを強化している	内部研修会や接遇の勉強会の中で、利用者の人権を尊重する介護のあり方を学び、職員一人ひとりが自覚しながら、利用者が安心して穏やかに暮らせる介護の実践に取り組んでいる。利用者の事を思い、利用者に寄り添い、心の声を心の耳で受け留める事の出来るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修においては勤務調整をし、積極的に参加できる取組を行い、スキルアップできるように努めている 社内研修においては年間計画を立て、外部講師を招いている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、勉強会、情報交換を行い、利用者への質の向上に努め反映している		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入後は信頼関係を築くため、寄り添い、不安なことや要望に傾聴し安心を得られるように特別な時間を設ける		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向、要望を傾聴し、安心していただけるように説明するとともに信頼関係が築けるように努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「寄り添う心」を基本とし、支え合う関係である。利用者の出来る事柄を見つけ出し、励まし継続できるように支援している		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で本人に出来ることを見つけ出し、実行することで自信に繋がられるように支援し、本人の生きがいとなるように心掛けている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者や家族とホームの三体がバランスよく保てるように情報を密に取り、利用者を見守り支援する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が望む関係を継続できるように支援し、気軽に外出や来所ができるように支援する。本人からの要望を可能な限り叶えられるように努めている	入居時の聴き取りや入居後の情報により、利用者の思いを把握し、「会いたい」「行きたい」等、利用者の希望の実現に力を入れて取り組んでいる。音信不通であった親族が、訪ねて来られるようになったり、家族と協力しながら、利用者の行きつけの美容室に同行する等、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに集まりやすい工夫をし、顔合わせから顔馴染みとなるよう見守り、孤立化しないようにつとめている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族から相談がある時には、時間の許す限り協力、フォローに努めている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常より利用者に関し、洞察力を持ち利用者の思いに寄り添い、本人本位の支援に心掛けている	職員の異動が少ない事で、利用者との信頼関係が築かれている。毎日の暮らしの中で、職員は利用者の思いや意向を把握するべく、洞察力の強化に努め、ミニカンファレンスで情報を共有している。「利用者が立腹している原因は何だろう」と、利用者の立場になって話し合う等、一つひとつの事例について、本人本位に検討している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を基に、生活歴、生活環境を十分に分析を行い本人らしさが生かせるように努める		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしさを尊重し、本人が心身共に生き甲斐とされるように支援している		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人視線に立ち、家族の思いや意向等を反映させながら、穏やかな日常生活が送れるように現状に即した介護計画を立案する	利用者や家族と話し合う時間をつくり、意見や要望、心配な事等を聴き取り、反映できるよう努めている。例えば、「ダンディでいたい」という思いの実現のため、家族、職員間で話し合い、本人本位の介護計画を定期的に作成している。カンファレンスやモニタリングを実施し、前回の介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々の生活の中で、個別の観察力を生かし、心身の変化、気づきを見逃すことなく職員間で情報を共有しながら、統一した援助が行えるよう計画の見直しをしている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化として、要望に即した対応を心掛け柔軟な支援(病院送迎代行、外出同行、訪問マッサージ)等が応じられるように支援している		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、共存共栄が円滑にできるように支援し、本人の心身の活動の場を広げ 喜び、楽しさを実感できるように支援している		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の病歴を考慮し、利用者、家族の希望を優先し、かかりつけ医との連携を図り、緊急時には救急病院の利用も納得していただいている	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ホームドクターによる往診体制を確立し、24時間電話での指示を受けられるため安心である。利用者一人ひとりの受診ノートには、受診時における医療機関とのやり取りを記録し、情報の共有に努めている。薬局や併設事業所の看護師とも連携し、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変を見逃さない観察力を養い、正確な情報を看護職に伝え、相談し利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時に的確な情報を伝え、安心して治療を受けられるような体制を取り、病院関係者との情報を交換し早期の退院へとなれるように努めている		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた指針を作成し、段階を追って、主治医、地域の関係者、職員全員で共有する体制を取り、本人、家族の意向に添えるように努めている	利用者の重度化に合わせ、段階的に家族や主治医と話し合い、今後の方針を確認している。家族の希望に出来るだけ応えられるように、研修受講により、職員のスキルアップを図り、ホームの対応力を強化している。現在まで、ホームでの看取りの経験はないが、できる限りホームで過ごして貰えるよう、全職員が思いを一つにして支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変を早期発見、早期対応に心掛け、掛かりつけ医、看護職員を中心に定期的に勉強会を実施している 全職員には初期救急対応編の講習を受講済である ホームにはAED設置にて講習済		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署による防災、避難訓練を実地している 近隣の地域住民に協力体制を築いている 設備に関しては、全棟 スプリングクラー設置	消防署の協力と地域住民の参加を得て、防災、避難訓練を実施している。併設事業所職員との連携を確認し、利用者全員を安全に避難場所に誘導出来る体制を整えている。また、夜間想定避難訓練を、自主防災組織で毎月のように行なっている。非常食や飲料水の備蓄もしている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を重視し、敬う思いを心掛け、よりよい声掛けや笑顔での接遇に努めている プライバシーの確保と合わせ、職員間で確認し合っている	職員は利用者を敬い、一人ひとりを尊重した介護の実践に努めている。居室の掃除に入る時も、必ず利用者には声を掛ける事を徹底している。個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、職員の守秘義務については、入職時に説明し、書類を交わしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を優先し、日々の暮らしの中で自らが素直に自己表現が出来るように働きかけている 発語や自己決定が難しい方には 思いに寄り添い、心の耳で感じ取れるよう工夫している		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人第一を優先する心得を忘れず、マイペースを大切に、本人の希望に寄り添い、その人らしく暮らせる様に支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人にとって、身だしなみ、おしゃれをする思いは楽しみ、生きていく力です、みんなから見られたい、ほめられたい等が毎日の生き甲斐となれるように、いつまでも忘れず持ち続けられるように支援する		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつまでも「美味しく食べれる幸せ」を感じてもらえるようにホームでは、目で楽しみ、食べて喜ばれるように工夫し、セレクトメニューを導入、利用者と共に買い物から調理、盛り付けまで参加していただいている	利用者の力が発揮出来る食事作りを心掛け、食材の買い出しや料理の下拵え、台拭き、片付け等を利用者の状態に合わせて一緒に行っている。ホームの畑で採れた季節の野菜や、敷地内に植えられたレモン、無花果等もその成長を楽しみながら美味しく食べている。おやつを手作りしたり、回転ずしに皆で出かける等、食事が楽しみになるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取レベルを考慮し、食材の調理法や食事形態を工夫している 食事、水分摂取量を記録し、健康状態と連動し支援している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々の口腔状態に合わせたケアを個々に支援している 訪問歯科医による定期的な専門ケアを行っている		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないように声掛けに十分注意し、一人ひとりの排泄感覚を踏まえ個々に理解されるように声掛け誘導とする	トイレで排泄する事の重要性を職員全員が理解し、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、早めの声掛けやトイレ誘導を行っている。また、夜間もトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減と、利用者の自信回復に繋がる、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便状況を把握し、排便コントロールを含め便秘予防に努めている 「便秘予防体操」を楽しく出来るように工夫し、毎日三回実行している		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隣接している施設と入浴日が合わないよう設定し、本人の希望に合わせていつでも入浴できるようにして、気分転換が図れるように工夫している 例えば温泉気分が満喫できる入浴剤を使用している 入浴タイムも本人ペースを尊重している	基本的には週2回の入浴となってはいるが、各棟で曜日を変えているため、希望に合わせていつでも入浴できる。入浴を拒む利用者にも、「隣に入りに行きましょうか」と声掛けし、気分を変えて入浴を楽しむ事が出来るよう支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身の状態を踏まえ、昼食後に全身リラックスタイムを設け、30分～60分の午後睡を取り入れたり、夜は入眠前にホット飲料を摂取していただき良眠できるような声掛けにも工夫している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病院ノートを作成しており、職員は病歴、現状を理解の上、服薬管理を行っている 又、体調の変化に関しては主治医と密に連携を図っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事柄、得意分野を現状の身体状態に合わせ、出来る可能な限り支援している 成果を互いに喜び合い次のステップへと繋げられるように心掛けている		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	野外レクや、買い物、外食、ドライブ、近所散策など利用者の希望と体調を配慮し支援している 家族の方に協力を得、外出の機会を設けている	利用者の希望を聴いて、買い物や花見、外食、ドライブに出掛け、気分転換を図っている。利用者の重度化が進んで遠出が難しくなる場合を想定して、敷地内に「おひさま公園」を造り、桜を植樹し、東屋を造り、近所の方と交流出来るいこいの場として、毎日の散歩コースになっている。また、家族の面会時に一緒に外出を楽しむ利用者もいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者には意向を尊重し、職員同行にて買い物に付けている		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の挨拶状においては、職員と共に文面を考えたり本人の自主性を大切に支援している 電話も同様に要望があれば電話にて話す機会を設けている		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の移りを体感できるように共有空間はぬくもり、安堵感のあるムードづくりを演出し、利用者の作品の展示やみんなで手掛けた飾りつけでつるぎる我が家づくりをしています	自然が残る高台に位置し、季節の花や野菜、果樹が豊かに育つ環境の中、2匹の番犬に見守られ、利用者の生き生きとした暮らしがそこにある。各ユニットの管理者や職員、利用者の個性を活かした季節毎の折り紙の作品や生花を飾り、季節感、生活感を大切にした居心地の良い共用空間作りに取り組んでいる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は自由に行き来できるように整備し、気軽に交流できるように楽しく日々が過ごせるように支援しています 職員は不特定多数に声掛けすることを心掛けています		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた我が家が連想できるように馴染みの物を置き、ホーム生活に支障が出ない配置とし、居心地よく生活出来るように支援しています 四季の衣替えも職員と共に行い、居室内のレイアウトも本人の要望を受け入れ共に行っている	テーブルや筆筒等、馴染みの物を持って来てもらい、家族とも相談しながら、本人が落ち着ける居室作りに取り組んでいる。毎日、16時から掃除の時間とし、今でも利用者が自分の部屋を自分で掃除している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策には万全とした環境整備に取り組み、自立した生活が送れるように工夫している 利用者の力が発揮できる環境作りをしている		